

2022年度

「AI・データサイエンス応用基礎教育プログラム(工学部)」、 「AI・データサイエンス応用基礎教育プログラム(環境学部)」、 「AI・データサイエンス応用基礎教育プログラム(生命学部)」の自己点検・評価

自己点検・評価の視点	結果
1. プログラムの履修・修得状況	<ul style="list-style-type: none">● プログラムの履修者は、工学部50名、環境学部39名、生命学部0名で、入学定員に対する割合は、それぞれ、9%、22%、0%となり低い割合に留まった。一方、修得率はそれぞれ、88%、97%、0%(履修者なし)となり、良好な結果であった。
2. 学修成果	<ul style="list-style-type: none">● 自らの専門分野の研究や卒業後の就業に際し、社会や企業における課題をデータから解決できるように、様々なデータを適切に収集・解析し、AIを活用するためのシステム構築から運用までの流れを経験することができた。● プログラムの最終段階では、手書き数字を判別する課題にPBL形式で取り組み、グループ単位で深層学習モデルを構築し、その成果をプレゼンテーションで発表することができた。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<ul style="list-style-type: none">● 今年度の「AI・データサイエンス応用」の授業アンケートの回答率が極めて低い状況となり、定量的な評価を実施するに至らなかった。来年度以降は、授業内でしっかりと回答時間を確保し、多くの履修者からのアンケート結果を収集できるように改善していく。また、プログラム全体を通じたアンケート調査も実施し、教育の質の更なる向上を目指していく。● 授業で生じた疑問、授業時には分からなかった内容等については、学習管理システムを用いて適宜質問を受け付けたが、将来的には本教育プログラムを修了した学生がTA/SAとして学習支援する体制も構築していく。
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<ul style="list-style-type: none">● 昨年度初めて修了生を輩出したため、今後修了者へのインタビュー記事や企業から見た本プログラムへの期待などを後輩学生に伝えていく。
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<ul style="list-style-type: none">● 本教育プログラムは、1年次必修科目「AI・データサイエンス入門」及び3年次選択科目「AI・データサイエンス応用」の2科目で構成している。3年次選択科目の履修者を増やすため、1年次必修科目「AI・データサイエンス入門」や関連科目、在学生ガイダンスにおいて履修を強く推奨していくことで、履修者数・履修率の向上を目指していく。

自己点検・評価の視点	評価理由
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年3月時点で本プログラムを修了した卒業生はおらず、自己点検・評価の対象外とした。 ● 本学が主催する企業懇談会等の機会を活用して採用担当者や卒業生にアンケート調査を実施し、教育プログラム修了者の企業における活躍状況や、本教育プログラムの学修効果等について把握していく計画である。
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 上の項目と同様に、企業懇談会等の機会を活用してアンケート調査を実施し、教育プログラムの講義内容や実データを活用した演習等の手法について意見・要望を収集し、プログラムの改善に活用していく計画である。 ● 広島県と連携し、本教育プログラムの動画教材の一部を県内の他大学・短期大学の学生や企業の方々にオンデマンドで受講頂けるように準備を進めた。令和5年度から学外からのフィードバックが入りやすくなる工夫を施すことができた。
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<ul style="list-style-type: none"> ● 座学だけでなく、AI・データサイエンスの活用体験を取り入れ、それらの必要性や意義、適用領域を学生が説明できるようになることを学習目標に進めている。 ● 将来的には、AI・データサイエンス人材育成を目的とした企業インターンシップを設計し、学ぶことの意義をさらに高いレベルで実感できるように発展させていく計画である。
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当教員から見た学生の反応等に基づき、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを行っている。 ● 授業が全て終了した後のアンケート調査以外に、途中段階でミニツツペーパーや確認テストを実施することで、学生の理解度が低い部分をタイムリーにサポートした。